

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館施設の管理	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	管理費（01-01-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和 平成	25 年度	根拠	図書館法、荒川区立図書館条例、荒川区立図書館館則	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館施設の適切な維持管理により、利用者サービスの充実を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	区立図書館5館の維持管理業務 ・南千住図書館：南千住6-63-1。敷地面積2,723.96㎡。延床面積2,686.10㎡（建物合計5,270.69㎡） ・荒川図書館：荒川4-27-2。敷地面積2,004.84㎡。延床面積1,165.29㎡ ・尾久図書館：西尾久3-12-12。敷地面積1,328.94㎡。延床面積1,201.82㎡ ・町屋図書館：町屋5-11-18。都営住宅敷地内。延床面積1,045.44㎡ ・日暮里図書館：東日暮里6-38-4。敷地面積893.92㎡。延床面積1,369.66㎡				
経過	・昭和37年 3月 荒川図書館開館、昭和46年 9月 尾久図書館開館、昭和48年 4月 旧南千住図書館開館、昭和53年11月 町屋図書館開館、昭和55年 4月 日暮里図書館開館 ・昭和56年 4月 開館時間が9時半～19時半となる。全館でコピーサービス開始 ・平成 4年 7月 全館で日曜開館・月曜休館実施 ・平成10年 5月 現南千住図書館開館。南千住図書館で祝日開館実施 ・平成15年 4月 南千住図書館で月曜の祝日開館実施 ・平成16年 9月 地域館の機械警備を実施 ・平成17年 4月 全館で祝日開館実施。南千住図書館の土曜開館時間を19時半まで延長				
必要性	図書館全体に係る保守・維持管理業務であり、図書館サービスを提供するうえで不可欠である。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ・南千住図書館建物維持管理業務委託（㈱ケルンビルシステム 22年度 ¥6,437,433） ・南千住図書館遠方監視業務等保守委託（㈱山武ビルシステムカンパニー東京本店 22年度 ¥3,366,972） ・南千住図書館建物管理設備保守業務委託（㈱後藤ビルサービス 22年度 ¥1,205,568） ・南千住図書館エレベーター保守業務委託（中央エレベーター工業㈱ 22年度 ¥1,224,720） ・南千住図書館機械警備業務委託（総合警備保障㈱城東支社 22年度 ¥483,840） ・各図書館及び原保育園清掃業務委託（㈱ワールドサービス荒川支店 22年度 ¥5,573,700） ・各図書館冷暖房機器保守委託（光ビル管理㈱ 22年度 ¥1,711,500） ・地域図書館機械警備業務委託（㈱コアズ東京事業本部 22年度 ¥661,500）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	68,284	67,176	63,647	60,909	60,489	60,652	58,795	
決算額（23年度は見込み）	58,572	57,382	58,619	59,227	54,714	56,560	58,795	
人件費等	26,959	25,620	16,466	16,121	12,763	12,487		
減価償却費						4,358		
【事務分担量】（%）	320	300	300	290	219	150		
合計（+ +）	85,531	83,002	75,085	75,348	67,477	73,405	58,795	
国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
その他（特定財源）	311	355	348	383	341	325	356	
一般財源	85,220	82,647	74,737	74,965	67,136	73,080	58,439	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	入館者数（人）	1,126,719	1,068,982	1,117,360	1,211,614	1,256,398	1,341,224	1,391,000
	個人貸出者数（人）	515,012	521,504	537,305	586,263	633,555	671,737	709,000
	個人総貸出点数（点）	1,675,071	1,672,802	1,703,343	1,818,212	1,927,377	2,000,924	2,074,000
	住基人口（翌年1月1日）	177,547	178,399	181,205	184,207	186,906	188,968	192,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	光熱水費	電気・ガス・水道	25,150	電気・ガス・水道	26,734	電気・ガス・水道	28,077
	一般需用費	消耗品・物品修繕	262	消耗品・物品修繕	540	消耗品・物品修繕	261
	役務費	電話料・地域館受水槽清掃	3,672	電話料・地域館受水槽清掃	3,789	電話料・地域館受水槽清掃	4,067
	委託費	各館設備保守等業務委託	25,383	各館設備保守等業務委託	25,495	各館設備保守等業務委託	26,390
	使用料及び賃借料	資料貸出手続確認装置賃借	173				
	備品購入費	ブックトラック2台	74				

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	入館者一人当たりの経費(円)	49	44	42	42	40	経費÷入館者数
	貸出点数一点当たりの経費(円)	33	28	28	28	25	経費÷貸出点数
	区民一人当たり総個人貸出点数(点)	9.9	10.3	10.6	10.8	11.0	個人総貸出点数÷住基人口

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの充実や図書サービスステーションの開設による身近な場所でのサービス提供を図り、入館者数や貸出点数を増やすことにより、一人当たりのコスト削減を目指す必要がある。 ・各館の老朽化やバリアフリー化への対応、本をゆったりと読むスペースの提供など、魅力ある読書環境を実現するため、年次計画による改善が必要である。
他区の実況	(実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
老朽化やバリアフリー対策など各館の環境整備	利用者の満足度の向上

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	図書館の管理運営にかかる事業であり、継続して実施する。

(要旨)	<p>平成15年二定</p> <p>平成16年三定</p> <p>平成18年一定</p> <p>平成18年二定</p> <p>平成19年二定</p> <p>平成20年一定</p> <p>平成22年二定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機能を充実した新しい図書館の建設について ・中央図書館の早期設置について ・中央図書館構想の策定について ・新たな子ども図書館の期待と親子で楽しめる読書環境の整備について ・区民施設、教育施設としての中央図書館設置について ・荒川図書館の建替えについて ・地域館の整備について 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の図書館体制の見直しについて
------	--	---	---

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書資料の購入		部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史	
			担当者名	小菅 建太郎	内線	436	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	図書購入費（01-02-01）						
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	25年度	根拠	図書館法、荒川区立図書館館則、荒川区立図書館資料取扱規程、荒川区立図書館資料収集要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]					
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]					
	施策	図書館サービスの充実[04-13]					
目的	図書館を運営する上での基本的要素である図書資料を充実し、生涯学習の支援と生活に役立つ図書館を目指す。						
対象者等	図書館利用者						
内容	<p>図書館サービスの中で最も基本となるものは、区民への資料提供であり、資料の収集内容によって、図書館のサービス内容が決まるともいえる。多様化・高度化するニーズを的確に把握し、積極的に資料を収集し情報を提供している。</p> <p>なお、「これからの図書館調査懇談会」の提言を受け、平成20年度から全館の収集基準を設け、特色ある図書館づくりをすすめている。</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成5年度 図書館オンラインシステムの稼働に合わせて、新刊配本を一カ所とし、合同で選択会議を行う集中発注受入方式を導入 ・平成18年度 図書資料収集基準として、荒川区立図書館資料収集要綱を制定（19年3月） ・平成20年度 区立図書館それぞれの地域性に合わせた「特色ある図書館づくり」を目指し、分担収集を実施 						
必要性	利用者の多様化するニーズに的確に対応し、図書館の本質的な機能である資料の提供を担うためには、必要な事業である。						
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本については毎日、東京都書店商業組合荒川支部を通し、専門書から一般書まで全分野にわたる図書館向け新刊本の配本がある。 ・毎週火曜日、各館から代表者が集まり、図書の合同選択会議を開催。配本された本の内容を確認しながら、図書館資料収集基準に基づき選書を行い、その結果により書店組合に発注を行っている。 						

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	71,050	73,570	78,643	81,108	81,108	74,666	76,072
	決算額（23年度は見込み）	66,496	66,196	70,535	74,249	72,549	73,048	76,072
	人件費等		35,771	36,364	36,140	33,153	18,731	
	減価償却費						9,006	
	【事務分担当】（%）		1,055	1,112	1,110	997	310	
	合計（+ +）	66,496	101,967	106,899	110,389	105,702	100,785	76,072
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	66,496	101,967	106,899	110,389	105,702	100,785	76,072	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	図書雑誌蔵書冊数(冊)	700,301	707,449	722,184	730,000	737,769	751,425	760,000
	図書雑誌個人貸出冊数(冊)	1,395,858	1,398,843	1,442,500	1,552,870	1,662,058	1,798,009	1,900,000
	図書購入冊数(冊)	36,149	34,094	34,740	37,057	35,612	34,780	38,000
	雑誌購入冊数(冊)	17,035	16,733	16,807	16,629	16,536	16,733	16,700
	住基人口(翌年1月1日)	177,547	178,399	181,205	184,207	186,906	188,968	192,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
一般需用費	一般書・児童書	54,611	54,773	一般書・児童書	54,773	一般書・児童書	55,682
	雑誌(611種)	13,889	14,260	雑誌(608種)	14,260	雑誌(608種)	11,055
	新聞(23種)	2,698	2,709	新聞(23種)	2,709	新聞(23種)	3,251
	追録	1,134	1,089	追録	1,089	追録	844
	官報	216	216	官報	216	官報	216
						特色ある図書館づくり	5,025

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値(25年度)	
標	区民一人当たり蔵書冊数(冊)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2	蔵書冊数÷住基人口
	区民千人当たり図書購入冊数(冊)	201	237	232	232	250	年間購入冊数÷住基人口千人
	区民一人当たり個人貸出冊数(冊)	8.4	8.9	9.5	9.9	11.0	年間貸出冊数÷住基人口

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に資料収集方針を策定し、平成20年度には特色ある蔵書づくりに向けた専門書等の分担収集分野を決めた。「特色ある図書館づくり」充実のため、分担収集を推進する必要がある。 施設規模の蔵書容量から蔵書数には限度があり、この中でいかに新鮮で魅力ある書架構成を行うか、図書館職員の選書能力の向上及び図書情報と社会情勢に対する日々の研鑽が必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
蔵書構成の充実	図書館サービスの向上
ビジネス支援など新たな図書館サービスを支える資料やレファレンス資料の充実	利用者の多様化・専門化するニーズの充足及び図書館サービスの向上
特色ある図書館づくり	地域の特性を生かした専門的蔵書構成で、新たな魅力の醸成

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	図書館サービスの基盤である資料の充実を図るため、優先度の高い事業である。

(状況)	<p>議会議事録</p>
------	--------------

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	視聴覚サービス	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史												
		担当者名	水野 裕都	内線	436												
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	視聴覚費（01-02-02）																
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業													
開始年度	昭和 平成	37 年度	根拠法令等	図書館法第3条、荒川区立図書館館則第2条													
終期設定	有 無	年度															
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画												
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]															
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]															
	施策	図書館サービスの充実[04-13]															
目的	図書館において、視聴覚資料を提供し、利用者サービスの充実を図る。																
対象者等	図書館利用者																
内容	16ミリ映写機検査（年1回） 視聴覚資料（CD・カセットテープ・DVD・ビデオテープ等）の購入と貸出 各種消耗品の購入（CDケース・CD貸出袋・CD仕切版、16ミリ映写機用消耗品、ビデオテープ用消耗品等） 【平成22年度視聴覚資料の貸出数】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">CD</td> <td style="width: 20%;">230,260</td> <td style="width: 30%;">ビデオテープ</td> <td style="width: 20%;">11,158</td> </tr> <tr> <td>カセットテープ</td> <td>5,286</td> <td>16ミリフィルム</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>DVD</td> <td>15,306</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					CD	230,260	ビデオテープ	11,158	カセットテープ	5,286	16ミリフィルム	55	DVD	15,306		
CD	230,260	ビデオテープ	11,158														
カセットテープ	5,286	16ミリフィルム	55														
DVD	15,306																
経過	昭和45年度 16ミリフィルムの貸出実施 昭和61年度 CDの貸出実施 昭和63年度 16ミリ映写機の検定実施 平成10年度 16ミリ映写機の操作講習会が社会教育課から図書館に移管 平成18年度 16ミリ映写機の操作講習会を受講者実績の減少により休止 平成18年度 DVDの貸出実施																
必要性	図書館が、図書以外の資料として視聴覚資料を 教育的利用 鑑賞的利用 趣味的利用を目的として提供することは、より多くの利用者サービスの充実を図るため必要である。																
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 16ミリ映写機の検定：区内各施設が所有する映写機について、年1回専門技術者による点検・整備を図書館で実施 CD・DVDの購入：毎月1回、各図書館の担当者からなる選定会議を開催し、新譜リスト等により選定																

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	11,260	11,260	10,904	10,756	10,720	9,816	8,441
	決算額（23年度は見込み）	10,083	9,475	8,397	9,448	9,652	8,443	8,441
	人件費等	11,570	2,424	12,074	12,375	9,197	4,639	
	減価償却費						1,743	
	【事務分担量】（%）	250	260	270	270	213	60	
	合計（+ +）	21,653	11,899	20,471	21,823	18,849	14,825	8,441
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	21,653	11,899	20,471	21,823	18,849	14,825	8,441
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	16ミリ映写機検定実施台数(台)	68	46	43	41	41	31	31
	視聴覚資料所蔵点数(点)	47,537	44,605	45,792	46,483	46,610	46,614	47,000
	DVD所蔵点数(点)	111	280	420	578	726	898	1,100
	ビデオ所蔵点数(点)	3,357	3,302	3,242	3,164	3,111	3,050	3,000
	視聴覚資料個人貸出点数(点)	279,213	273,959	260,843	265,342	265,319	262,010	270,000
	住基人口(翌年1月1日)	177,547	178,399	181,205	184,207	186,906	188,968	192,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	報償費	16ミリ映写機検査技師謝礼	39	16ミリ映写機検査技師謝礼	26	16ミリ映写機検査技師謝礼	26
	一般需用費	CD購入	6,811	CD購入	5,925	CD購入	5,720
		カセットテープ購入	89	カセットテープ購入	70	カセットテープ購入	92
		DVD購入	1,679	DVD購入	1,470	DVD購入	1,650
		CD貸出袋等消耗品購入等	748	CD貸出袋等消耗品購入等	952	CD貸出袋等消耗品購入等	847
		物品修繕費	0	物品修繕費	0	物品修繕費	105

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	DVD移行率（%）	18.3	23.3	29.4	36.7	40.0	DVD所蔵数÷ビデオ所蔵数
	区民一人当り視聴覚資料個人貸出点数(点)	1.4	1.4	1.4	1.4	2.0	視聴覚資料個人貸出点数÷住基人口
	区民千人当り視聴覚資料所蔵点数(点)	253	249	249	245	300	視聴覚資料所蔵点数÷住基人口千人

問題点・課題
(指標分析)

- ・音響資料の新譜はほとんどCDとなり、カセットテープの発売は大きく減少してきているが、高齢者を中心にカセットテープの貸出が依然として多い。また、映像資料については、新規発行がビデオテープからDVDに移行してきている。さらに、今後はブルーレイディスク（BD）とその再生機も普及していくと思われる。図書館として、視聴覚資料の発行形態の大きな変化や区民ニーズに対応していく必要がある。
- ・団体貸出用である16ミリフィルムの利用を促進するため、教育用DVDやビデオと同様に目録データを登録し、平成22年度からシステム上で利用できるようにした。今後は、これらの資料を有効に活用してもらうため、学校等への周知を強化するなど、一層の利用促進を図る必要がある。

他区の実況

（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
AV資料選択の質の向上	図書館サービスの向上
団体貸出資料についての周知	図書館資料の情報提供と利用の促進

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	推進	図書館サービスの基盤である資料の充実を図るため、優先度の高い事業である。

議
況
（
要
質
問
状
）

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	障がい者サービス	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	水野 裕都	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	障がい者サービス費（01-02-03）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	56 年度	根拠	荒川区立図書館館則第2条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	視覚障がい者に対する録音図書・点字図書の充実など、障がいのある利用者へのサービス向上に努める。				
対象者等	何らかの障がいのため、図書館利用が困難な区民				
内容	<p>【図書資料の宅配サービス】 何らかの障がいにより、図書館への来館が困難な方を対象に、職員が図書資料（本・カセット・CD・ビデオ・DVD）を自宅まで配達。貸出期間は1カ月</p> <p>【対面音訳サービス】 目の不自由な方に、対面音訳者が必要な図書資料をその場で読むサービス</p> <p>【その他のサービス】 区内の福祉施設（のぞみの会・ひまわり作業所等）への団体貸出の実施。福祉まつりに参加している。</p> <p>【録音図書の製作と貸出】 利用者からのリクエストや職員が選んだ図書を音声化して作成する。音訳はボランティアに依頼しており、内容の録音、校正を経て完成させる。主に作成する録音図書は小説・エッセイ・実用書である。また、自前で製作できる冊数が限られるため、全国の点字図書館・公共図書館と相互貸借をしている。平成20年度からはデジタイズ図書の作成も始めた。</p> <p>【音訳者養成講座の開催】 録音技術の習得と向上を目的とした音訳者養成講座を実施している。</p>				
経過	昭和56年12月	「図書館利用に障がいのある人々へのサービスの基本計画」を策定			
	昭和57年 4月	昭和56年の国際障害者年を契機に障がい者サービス事業を検討し、家庭配本・対面朗読（現在は「対面音訳」）開始			
	昭和58年10月	カセットテープによる録音図書の貸出を開始			
	昭和59年 1月	点字図書作成開始			
	平成18年10月	日本点字図書館は、平成23年3月末をもってテープ図書貸出終了の方針を決定（デジタイズ図書のみ貸出）			
必要性	何らかの障がいのある方に、より多くの図書館資料を提供するため、必要な事業である。録音図書のデジタイズ化は利便性・耐久性に優れており、利用者のサービス向上にも繋がる事業である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 点字図書・録音図書の作成：ボランティア（養成講座修了者及び受講者）に協力いただいて作成 音訳者養成講座：音訳者としてのレベルアップを図るため、外部から講師を呼び実施				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	2,326	2,506	2,301	5,039	3,408	3,105	3,237
	決算額（23年度は見込み）	2,158	2,278	2,014	4,303	2,389	2,331	3,237
	人件費等	4,163	2,424	4,148	5,211	2,094	1,744	
	減価償却費						581	
	【事務分担量】（%）	70	50	70	90	46	20	
	合計（+ +）	6,321	4,702	6,162	9,514	4,483	4,656	3,237
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	6,321	4,702	6,162	9,514	4,483	4,656	3,237
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	宅配サービス実績回数（回）	478	520	384	507	707	650	700
	H S登録者数（人）	118	122	120	124	131	120	135
	H S資料個人貸出点数（点）	2,223	2,213	2,433	2,400	2,604	2,273	2,500

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
予算・決算の内訳	報償費	音訳者養成講座講師謝礼	280	音訳者養成講座講師謝礼	280	音訳者養成講座講師謝礼	280
		デージー図書編集・校正謝礼	193	デージー図書編集・校正謝礼	340	デージー図書編集・校正謝礼	619
	一般需用費	大活字本	970	大活字本	991	大活字本	1,070
		デージー図書	336	デージー図書	419	デージー図書	529
		その他消耗品	392	その他消耗品	280	その他消耗品	251
	役務費	郵送料	20	郵送料	20	郵送料	20
				その他通信運搬費		その他通信運搬費	26
	委託料	デージー編集講習会	200			デージー編集講習会	400
	備品購入費					点字用ラベルライター	41
	その他						

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
指標	障がい者利用登録者率（％）	5.8	6.1	6.0	6.3	7.0	H S登録者数÷対象者数（肢体不自由及び視覚障がい1・2級手帳保持者）
	デージー図書貸出普及率（％）	8.0	17.1	36.5	38.0	40.0	D A I S Y図書貸出点数÷録音図書貸出点数

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がどのようなサービスを図書館に求めているのか等を、各関係機関・関係団体と連携しながら把握し、事業を進めていく必要がある。 ・点字図書作成奉仕者及び音訳者が固定化してきている。新しい点訳者及び音訳者の育成をどのように行っていくかが課題である。 ・録音図書は、今後パソコンやデジタル録音機を使用し作成することとなるため、研修や個別指導を充実させていく必要がある。また、現在約1,000タイトルを所蔵しているカセットテープによる録音図書のうち、最終的に何タイトルをデージー化していくかを検討する必要がある。 ・特に高齢の方には、デージー図書再生機という新しい機械の利用に抵抗があると推測されるため、個別に使い方を説明していくなど、きめ細やかなサービスを行う必要がある。
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容
	改善により期待する効果
	障がい者サービス事業の積極的な紹介
	図書館利用の促進
	録音図書のデジタル化 (カセットテープによる製作は廃止)
	利便性の向上と資料の効率的な収集及び保存

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	障がい者サービスを充実させるため、優先度の高い事業である。

議会議決 （要旨）	
--------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館オンラインシステム	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	小菅 建太郎	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	図書館オンラインシステム（01-02-04） 図書館オンラインシステム（充実分）（01-02-06）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	5 年度	根拠法令等	荒川区個人情報保護条例、荒川区電子情報システム管理運営規程、荒川区住民基本台帳ネットワークシステム管理運営規程	
終期設定	有 無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	コンピュータシステムを活用することで、図書館の業務（蔵書管理・貸出返却・予約等）の運営を円滑にし、利用者の利便性の向上を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	<p>【図書館オンラインシステム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川区立図書館5館及び図書サービスステーション2箇所をオンラインシステムで結ぶことにより、どこの館でも貸出し、返却、予約等ができる。また、インターネットとつなぐことで、携帯電話や自宅のパソコンからも、資料検索、予約、予約・貸出状況確認、貸出延長などの手続きが可能となっている。 現行機器のリースは平成27年3月31日までである（サーバ機器6台、端末装置67台、プリンター14台、レシートプリンター50台、ハンディ端末12台等）。 <p>【図書資料提供までの流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料選択、発注、受入、回送等の一連の業務については、図書館システムによる集中発注処理方式で実施している。図書資料（図書・AV）の書誌データは、電子化された書誌データとしてニッパンマーク、トッカータマークを購入し活用している。資料の装備については、一括して業務委託しており、そのためのバーコードや装備用品を購入している。また、受入・予約・返却資料の他館への送付には配本車の委託契約をし、資料の迅速な回送に努めている。 				
経過	<p>平成 5年10月 1日 図書館コンピュータシステム3館第一次稼働、集中処理による運用開始</p> <p>平成 6年 6月 1日 図書館コンピュータシステム全館第二次稼働</p> <p>平成10年 5月 1日 新南千住図書館開館（祝日開館実施）</p> <p>平成11年 4月10日 図書館新コンピュータシステム稼働</p> <p>平成13年 7月 7日 インターネットによる資料の検索・予約サービス開始、図書館ホームページ開設</p> <p>平成14年 2月18日 携帯での検索・予約サービス、インターネットによる貸出・予約照会サービス開始</p> <p>平成14年 9月 8日 南千住図書館で無線LANインターネットサービス開始</p> <p>平成15年 7月 1日 全館で無線LANインターネットサービス開始</p> <p>平成16年 4月 1日 図書館新コンピュータシステム稼働</p> <p>平成16年 4月 3日 パスワード・メールアドレス登録、予約確保時連絡メール自動送信、メール督促開始</p> <p>平成18年 7月14日 全館でノートPCに加えてデスクトップPCによるインターネットサービス開始</p> <p>平成19年 9月 8日 汐入図書サービスステーション開設</p> <p>平成21年 3月 1日 全館で無線LAN規制ソフト導入</p> <p>平成21年11月14日 冠新道図書サービスステーション開設</p> <p>平成22年 4月 3日 オンラインシステムリプレイス・HPリニューアル</p> <p>平成22年12月18日 汐入図書サービスステーションリニューアル</p>				
必要性	区立図書館資料の管理・貸出等の業務運営はすべて図書館オンラインシステムによるため必要である。				
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 図書・CD・カセットテープ・ビデオテープの装備委託 （東京都書店商業組合荒川支部 22年度 ¥10,417,178）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	56,034	55,824	55,066	54,101	53,094	49,681	51,506	
決算額（23年度は見込み）	53,698	53,537	52,903	52,154	51,768	45,468	51,506	
人件費等	35,202	34,990	35,045	34,058	34,425	16,028		
減価償却費						7,117		
【事務分担量】（%）	980	945	1,012	1,000	1,084	245		
合計（+ +）	88,900	88,527	87,948	86,212	86,193	68,613	51,506	
一般財源	88,900	88,527	87,948	86,212	86,193	68,613	51,506	
実績の推移	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
個人登録者数（人）	51,492	50,422	50,805	51,768	53,769	55,566	57,000	
パスワード登録者数（人）	11,378	12,654	13,893	15,204	16,728	18,134	19,000	
予約登録点数（点）	327,310	352,406	395,266	456,606	500,626	562,336	610,000	
WEB予約登録点数（点）	186,805	216,444	256,988	310,971	351,383	406,774	450,000	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	ニッパンマーク等消耗品	3,037	ニッパンマーク等消耗品	3,412	ニッパンマーク等消耗品	3,370
			テ-カ-トリヅ等消耗品	741	テ-カ-トリヅ等消耗品	2,260	
	バーコード等印刷製本	1,512	バーコード等印刷製本	1,512	利用者カード等印刷製本	1,537	
役務費	配本車運行等	6,882	配本車運行等	5,893	配本車運行等	6,497	
			光専用回線使用料	3,211	光専用回線使用料	3,201	
委託料	CD・図書等装備委託等	10,401	CD・図書等装備委託等	10,417	CD・図書等装備委託等	10,318	
	オンライン・インターネット用機器等保守	9,188	オンライン・インターネット用機器等保守	8,606	オンライン・インターネット用機器等保守	8,740	
	新規システム運行準備委託等	17,850			シフト管理システム開発及び保守	2,500	
使用料及賃借料	オンライン・インターネット用機器賃借料	1,950	オンライン・インターネット用機器賃借料	11,377	オンライン・インターネット用機器賃借料	11,377	
	新規システム運行準備機器賃借料	948			B P S 賃借料	1,707	
工事請負費			光専用回線配管工事	299			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	パスワード登録者の割合(%)	29.4	31.1	32.6	33.3	35.0	パスワード登録者÷個人登録者数
	インターネット予約の割合(%)	68.1	70.2	72.3	73.8	75.0	インターネット予約登録点数÷予約登録点数

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット予約などのITサービスを実施しているが、さらにホームページを充実させるとともに、最新のIT技術について調査検討していく必要がある。 ・長期延滞対策等を強化し貸出等の運用見直しを区民に周知して実施する。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
ホームページなど情報発信の充実	図書館利用の拡大と利用者の生涯学習の充実

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	利用者の利便性向上を図り、先進的なITサービスを提供するため、継続して実施する。

況議 （要旨） 質問 状	平成12年二定 ・インターネットを活用した検索・予約システムの早期実現について 平成14年三定 ・インターネット予約時の順番がわかるようにすることについて
-----------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	子ども読書活動推進計画事業	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	水野 裕都	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	子ども読書活動推進計画事業費（01-02-05）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	18 年度	根拠	子どもの読書活動の推進に関する法律	
終期設定	有 無	22 年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	子どもたちの読書環境を整備し、自主的な読書活動を支援することにより、子どもたちが「本に親しむ」きっかけを増やす。				
対象者等	区民全体				
内容	<p>平成18年4月に策定された「荒川区子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭・地域、学校、図書館が連携して以下のような事業を行う。</p> <p>【1.家庭での読書活動に対する支援と地域における読書環境の整備】 ブックスタート、おはなし会、出産を迎える方々への読み聞かせ講習会、ボランティア養成講座、団体貸し出しの充実、子ども読書活動推進PRの実施等</p> <p>【2.小・中学校における取り組み】 学校図書館との連携強化、図書館職員による新小学一年生を対象にした学校訪問等</p> <p>【3.区立図書館における取り組み】 0歳から18歳までの子どもの発達段階に応じた読書活動を支援する。 体験型おはなし会の実施、10代の子どもに向けた参加型イベント、柳田邦男絵本大賞</p>				
経過	<p>平成13年12月 「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、地方自治体においても「子ども読書活動推進計画」の策定に努めることと規定された。</p> <p>平成17年 7月 「（仮）荒川区子ども読書活動推進計画」検討委員会及び作業部会設置</p> <p>平成18年 2月 「荒川区子ども読書活動推進計画（素案）」策定 文教委員会報告及びパブリック・コメント実施</p> <p>平成18年 4月 「荒川区子ども読書活動推進計画」策定</p> <p>平成19年12月 「荒川区子ども読書活動推進計画」に基づき、第一回あらかわ子ども読書フェスティバル実施</p> <p>平成20年 7月 第一回柳田邦男絵本大賞実施</p> <p>平成21年 1月 第二回あらかわ子ども読書フェスティバル実施</p> <p>平成22年 7月 第三回柳田邦男絵本大賞実施</p>				
必要性	子どもたちの読書離れの改善、読書力や国語力向上のため、必要である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	0	1,914	2,389	2,311	5,811	4,872	5,936	
決算額（23年度は見込み）	0	1,269	1,231	1,393	4,307	3,898	5,336	
人件費等	0	3,705	3,598	6,008	8,318	9,523		
減価償却費						4,358		
【事務分担当】（%）	0	60	85	95	212	150		
合計（+ +）	0	4,974	4,829	7,401	12,625	17,779	5,336	
国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	0	4,974	4,829	7,401	12,625	17,779	5,336	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	講演会（児童・10代）参加人数（人）	-	211	136	86	41	57	100
	ボランティア養成講座参加人数	-	203	186	261	140	148	200
	講習会（読み聞かせ等）参加人数	-	14	25	22	24	16	30

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	講演会等講師謝礼	391	講演会等講師謝礼	552	講演会等講師謝礼
一般需用費	消耗品費	2,642	消耗品費	2,547	消耗品費	3,422	
	印刷製本費	245	印刷製本費	619	印刷製本費	879	
役務費	筆耕	34	筆耕	32	筆耕	38	
使用料及び賃借料	会場使用料	13	会場使用料	51	会場使用料	154	
備品購入費	備品購入費	983	備品購入費	97	備品購入費	67	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	区立図書館における区内小学生の利用者登録率(%)	69.2	67.8	67.4	70.0	76.0	子ども読書活動の事業を展開し、8割近い登録をめざす。
	区立図書館における区内中学生の利用者登録率(%)	50.7	52.3	51.9	55.0	62.0	子ども読書活動の事業を展開し、7割近い登録をめざす。

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書活動の環境整備がますます必要となっている状況を鑑みて、関係各課との連携をはかって、「荒川区子ども読書活動推進計画」に基づいた計画事業を円滑に進める必要がある。 ・おはなし会や講演会などについては、ポスター・チラシ・ホームページなど、子どもたちに対し積極的な情報提供を行って、参加を促していく必要がある。 ・4月23日の「子ども読書の日」や10月27日の「文字・活字文化の日」にちなんだ効果的な啓発活動を行い、子ども読書活動の意義を積極的にPRする必要がある。
----------	--

他区の実況	（実施 20 区 未実施 2 区）
	千代田、中央、港、新宿、文京、台東、墨田、江東、品川、目黒、大田、世田谷、中野、杉並、豊島、北、板橋、練馬、足立、葛飾

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区内小中学校・学校図書館との連携強化	子どもの読書環境の整備と図書館利用の促進
ひろば館・ふれあい館等関係各課との連携による身近な場所でのサービスの提供	子どもの読書環境の整備と図書館利用の促進

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	子どもの読書離れの改善、国語力や読書力の向上のために、きわめて優先度の高い事業である。

議会議事録（要旨）	
-----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館の運営	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	図書館事務費（01-03-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	年度	根拠	図書館法、文字・活字文化振興法、荒川区立図書館館則	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館運営を適切に実施することにより、図書館の快適性を維持し、利用を促進する。				
対象者等	図書館利用者				
内容	区立図書館各館の運営や事業に必要な臨時職員雇上、消耗品購入、利用案内の作成、コピーサービス等を実施				
経過	昭和37年 3月 現荒川図書館開館 昭和46年 9月 尾久図書館開館 昭和48年 4月 旧南千住図書館開館 昭和53年11月 町屋図書館開館 昭和55年 4月 日暮里図書館開館 昭和56年 4月 開館時間が9時半～19時半となる。本の貸出を一人5冊、15日間とする。 昭和63年 4月 貸出冊数の制限撤廃 平成 4年 5月 日暮里図書館に吉村昭コーナー設置 平成 4年 7月 全館で日曜開館・月曜休館実施 平成 8年 5月 CD・カセットテープの貸出を5点15日間に変更 平成10年 5月 現南千住図書館開館。南千住図書館で祝日開館実施。ビデオテープの貸出開始（一人1点） 平成11年10月 ビデオテープの貸出点数を一人2点に拡大 平成15年 4月 南千住図書館で月曜の祝日開館実施 平成16年 9月 吉村昭ミニコーナーを全館で開設 平成17年 4月 全館で祝日開館実施。南千住図書館の土曜開館時間を19時半まで延長 平成21年10月 貸出冊数を一人30冊に変更。延滞者への貸出予約等停止措置の導入				
必要性	区民の読書推進と図書館利用の普及のため、今後も充実の必要がある。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	18,766	18,616	17,917	17,558	17,516	16,125	15,991
	決算額（23年度は見込み）	17,516	16,345	16,760	16,457	16,458	14,733	15,991
	人件費等	18,861	16,088	12,078	13,322	15,168	15,749	
	減価償却費						6,827	
	【事務分担量】（%）	255	210	170	180	329	235	
	合計（+ +）	36,377	32,433	28,838	29,779	31,626	37,309	15,991
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	1,215	1,043	911	1,066	1,018	1,079	1,131
一般財源	35,162	31,390	27,927	28,713	30,608	36,230	14,860	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	入館者数（人）	1,126,719	1,068,982	1,117,360	1,211,614	1,256,398	1,341,224	1,391,000
	個人総貸出点数（点）	1,675,071	1,672,802	1,703,343	1,818,212	1,927,377	2,000,924	2,074,000
	住基人口（翌年1月1日）	177,547	178,399	181,205	184,207	186,906	188,968	192,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般賃金	臨時職員雇上	11,406	臨時職員雇上	11,118	臨時職員雇上	11,767
報償費	養成講座	76					
職員旅費	近接地内旅費	28	近接地内旅費	27	近接地内旅費	31	
一般需用費	館運営消耗品印本	3,061	館運営消耗品印本	1,731	館運営消耗品印本	2,091	
役務費	CATV料金	109	CATV料金	107			
委託料	空気清浄機等保守	225	空気清浄機等保守	225	空気清浄機保守	152	
使用料等	複写機賃借料等	1,472	複写機賃借料等	1,444	複写機賃借料等	1,863	
負担金等	日本図書館協会会費等	81	日本図書館協会会費等	81	日本図書館協会会費等	87	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	入館者一人当たりの経費(円)	13.6	13.1	11.0	11.5	12.0	経費 ÷ 入館者数
	区民一人当たり総個人貸出点数(点)	9.9	10.3	10.6	11	11.0	総個人貸出点数 ÷ 住基人口

(問題点・課題分析)	<p>多様化するニーズに応え、充実した図書館サービスを提供するため、より利用しやすい運営形態等について検討を進める必要がある。</p>
他区の実施状況	(実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討									
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="text-align: center;">改善により期待する効果</th> </tr> <tr> <td>開館日や開館時間等、運営形態についての検討</td> <td>入館者数及び貸出点数の増加</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		改善により期待する効果	開館日や開館時間等、運営形態についての検討	入館者数及び貸出点数の増加				
	改善により期待する効果								
開館日や開館時間等、運営形態についての検討	入館者数及び貸出点数の増加								

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	図書館の管理運営にかかる事業であり、継続して実施する。

議会議況(要旨)	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館非常勤職員	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	図書館非常勤関係費（01-03-02）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	12 年度	根拠法令等	荒川区非常勤職員規則、荒川区非常勤職員の勤務条件等に関する要綱、荒川区教育委員会事務局非常勤職員設置要綱	
終期設定	有 無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館勤務経験者や司書（司書補を含む）など、図書に関する幅広い知識を持つ優秀な人材を図書館事務嘱託員として採用し、カウンター業務などの図書館運営全般を担ってもらうことにより、経費節減を図りながら、図書館のサービス向上を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	非常勤職員配置状況（平成23年4月1日現在） ・南千住図書館 非常勤職員28名配置（主任7名、上級1名） ・荒川図書館 非常勤職員13名配置（主任3名、上級1名） ・尾久図書館 非常勤職員13名配置（主任3名、上級1名） ・町屋図書館 非常勤職員13名配置（主任3名、上級1名） ・日暮里図書館 非常勤職員17名配置（主任4名、上級1名） 合計84名（主任20名、上級5名）				
経過	・平成12年度 町屋図書館で導入、非常勤3名採用、常勤職員定数67（2） ・平成13年度 全館導入、非常勤職員定数18（+15） 常勤職員定数57（10） ・平成14年度 非常勤職員定数33（+15） 常勤職員定数47（10） ・平成15年度 非常勤職員定数42（+9） 常勤職員定数41（6） ・平成16年度 非常勤職員定数57（+15） 常勤職員定数31（10） ・平成17年度 非常勤職員定数66（+9） 常勤職員定数25（6） ・平成18年度 非常勤職員定数66（±0） 常勤職員定数25（±0） ・平成19年度 非常勤職員定数77（+13） 常勤職員定数21（4） ・平成20年度 非常勤職員定数77（±0） 常勤職員定数21（±0） ・平成21年度 非常勤職員定数81（+4） 常勤職員定数21（±0） ・平成22年度 非常勤職員定数82（+1） 常勤職員定数22（+1） ・平成23年度 非常勤職員定数84（+2） 常勤職員定数22（±0）				
必要性	図書館運営のコスト節減を図りながら図書館サービスを維持させるために、非常勤職員は不可欠である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	167,677	167,774	198,546	195,394	218,053	223,781	231,596
	決算額（23年度は見込み）	164,746	163,173	191,907	192,489	213,967	216,181	231,596
	人件費等	21,707	22,079	23,396	24,481	29,088	10,900	
	減価償却費						3,631	
	【事務分担量】（%）	780	765	822	830	910	125	
	合計（+ +）	186,453	185,252	215,303	216,970	243,055	230,712	231,596
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	186,453	185,252	215,303	216,970	243,055	230,712	231,596
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	非常勤職員総数（人）	66	66	77	77	81	82	84
	非常勤職員数増（人）	9	0	11	0	4	1	2
	常勤職員数減（人）	6	0	4	0	0	1	0

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	報酬	非常勤職員報酬	190,751	非常勤職員報酬	191,436	非常勤職員報酬	204,522
	共済費	非常勤職員社会保険料	23,103	非常勤職員社会保険料	24,638	非常勤職員社会保険料	26,924
	特別旅費	非常勤職員旅費	113	非常勤職員旅費	107	非常勤職員旅費	150

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	非常勤職員司書有資格者率（％）	86	87	87	86	90	司書・司書補有資格者数 ÷ 非常勤職員数

（問題点・課題）	<p>・主任非常勤職員、上級非常勤職員を任用したが、職務の位置づけ及び非常勤職員の待遇改善等について引き続き検討していく必要がある。</p>
他区の状況	<p>（実施 18 区 未実施 4 区）</p> <p>未実施区（千代田区、大田区、中野区、板橋区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
非常勤職員の人事評価制度や選書能力・資質の向上についての検討	職員の資質及び図書館サービスの向上

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	図書館サービスを支える非常勤職員の役割は重要であるため、必要性が高い。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館施設の修繕	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	営繕費（一般）（01-04-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館施設の適切な維持管理を行い、利用者サービスの向上を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	図書館施設の建物修繕経費を計上 平成22年度の主な修繕 ・南千住図書館 空調機修繕（株山武ビルシステムカンパニー東京本店 22年度 ¥7,659,540） ・南千住図書館 誘導等バッテリー交換（株後藤ビルサービス 22年度 ¥209,580） ・荒川図書館 トイレ内手すり設置（日本カルミック株 22年度 ¥147,777） ・荒川図書館 空調設備等修繕（光ビル管理株 22年度 ¥2,591,400） ・尾久図書館 来館者カウンター修繕（有秀電社 22年度 ¥101,850） ・尾久図書館 ブラインド修繕（有カナザワ装飾 22年度 ¥509,775） ・町屋図書館 事務室空調機修繕（光ビル管理株 22年度 ¥193,200） ・町屋図書館 書架耐震補強転倒防止取付（荒川家具協同組合 22年度 ¥198,765） ・日暮里図書館 男子トイレ排水管（有黒川設備工業 22年度 ¥236,250） ・日暮里図書館 冷暖房機修繕（テクノ矢崎株東京支店 22年度 ¥123,375）				
経過	昭和37年 3月 荒川図書館開設 昭和46年 9月 尾久図書館開設 昭和51年10月 町屋図書館開設 昭和54年 6月 日暮里図書館開設 平成10年 5月 南千住図書館開設				
必要性	建物の老朽化が進む中で、施設を維持するためには不可欠な経費である。				
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 各館の破損状況等に応じ、業者委託により実施				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	6,578	6,488	6,418	7,347	7,355	15,016	6,921
	決算額（23年度は見込み）	4,698	4,580	3,756	4,684	5,999	14,773	6,921
	人件費等	6,465	6,405	3,965	4,251	5,579	5,668	
	減価償却費						1,888	
	【事務分担量】（%）	75	75	100	100	100	65	
	合計（ + + ）	11,163	10,985	7,721	8,935	11,578	22,329	6,921
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	11,163	10,985	7,721	8,935	11,578	22,329	6,921	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	全館修繕総件数(件)	51	50	39	42	56	74	75
	入館者数(人)	1,126,719	1,068,982	1,117,360	1,211,614	1,256,398	1,341,244	1,391,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		一般需用費	南千住図書館	582	南千住図書館	8,613	南千住図書館
	荒川図書館	2,211	荒川図書館	3,123	荒川図書館	1,024	
	尾久図書館	949	尾久図書館	927	尾久図書館	1,057	
	町屋図書館	1,196	町屋図書館	1,087	町屋図書館	919	
	日暮里図書館	1,061	日暮里図書館	1,022	日暮里図書館	1,204	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	入館者一人当たりにかかる経費（円）	6	10	42	57	50	（営繕費の一般分＋施設改修分）÷入館者数

（問題点・課題 指標分析）	・施設の老朽化への対応及び計画的な修繕が必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容
	施設の修繕計画の検討
	改善により期待する効果
	図書館利用者に対する快適な読書環境の整備

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	老朽化が進み、施設の維持が必要なため、継続して取り組む必要がある。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書館施設の改修	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	営繕費（施設改修分）（01-04-02）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館施設の適切な維持管理を行い、利用者サービスの向上を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	図書館施設の施設改修等工事費を計上 平成22年度の工事 ・尾久図書館 冷暖房機改修工事（株門脇工務店 22年度 ¥47,250,000） ・尾久図書館 事務室防音工事（株サンワークス 22年度 ¥1,239,000）				
経過	昭和37年 3月 荒川図書館開設 昭和46年 9月 尾久図書館開設 昭和51年10月 町屋図書館開設 昭和54年 6月 日暮里図書館開設 平成10年 5月 南千住図書館開設				
必要性	建物の老朽化が進む中で、施設を維持するためには不可欠な経費である。				
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 営繕課に執行委任して工事実施（予定金額130万円以下の工事については所管課で対応）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	2,963	18,132	3,066	2,777	9,234	48,550	72,715
	決算額（23年度は見込み）	2,573	16,989	3,024	2,439	7,161	48,489	72,715
	人件費等	0	0	2,806	1,939	1,751	1,308	
	減価償却費						436	
	【事務分担当】（%）	0	0	40	30	25	15	
	合計（ + + ）	2,573	16,989	5,830	4,378	8,912	50,233	72,715
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,573	16,989	5,830	4,378	8,912	50,233	72,715	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	全館改修工事件数(件)	1	3	2	1	2	2	3
	入館者数(人)	1,126,719	1,068,982	1,117,360	1,211,614	1,256,398	1,341,244	1,391,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
工事請負費	一般需用費 (家屋等修繕)					南千住・ITV設備更新	1,292
						南千住・空調設備改修	35,068
						尾久・自動ドアエンジン交換	1,287
						日暮里・自動ドアエンジン交換	1,509
						町屋・空調設備改修	33,560
	尾久・屋根改修工事	6,300		尾久・空調設備改修工事	47,250		
	尾久・下屋防水改修工事	861		尾久・事務室防音工事	1,239		

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
入館者一人当たり	に要する経費（円）	6	10	42	57	50	（営繕費の一般分＋施設改修分）÷入館者数
標							

（問題点・課題 指標分析）	・施設の老朽化への対応及び計画的な修繕が必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
施設の改修計画の検討	図書館利用者に対する快適な読書環境の整備

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	老朽化が進み、施設の維持が必要なため、継続的に取り組む必要がある。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	図書サービスステーション	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史	
		担当者名	村木 一貴	内線	436	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	図書サービスステーション管理運営費（01-05-01）					
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	19 年度	根拠	荒川区立図書館図書サービスステーション運営要綱		
終期設定	有 無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]				
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]				
	施策	図書館サービスの充実[04-13]				
目的	<ul style="list-style-type: none"> 近くに図書館が無いため、図書館サービスが行き届きにくいと思われる地域に図書サービスステーションを設置し、図書館サービスに対する区民の利便性の向上を図る。 急増している子育て世代に対する子育て教育環境の整備（汐入地域） 					
対象者等	図書館利用者					
内容	1 名称 汐入図書サービスステーション 2 住所 荒川区南千住8-12-5 べるぼーと汐入東館1F 109・114号室 社協が運営する「おもちゃ図書館」と隣接 3 面積 94.17㎡ 4 開館日 平成19年9月8日 5 業務内容 利用者登録、検索、予約、貸出、返却 6 蔵書冊数 図書10,107冊、雑誌420冊（H23年6月1日） 7 利用実績（H22年4月1日～23年3月31日） （1）入館者数 162,755人（1日当たり557人） （2）貸出者数 70,966人（1日当たり243人） 8 運営体制 南千住図書館の所管として運営			1 名称 冠新道図書サービスステーション 2 住所 荒川区西日暮里6-25-14 3 面積 181.44㎡ 4 開館日 平成21年11月14日 5 業務内容 利用者登録、検索、予約、貸出、返却 6 蔵書冊数 図書8,864冊、雑誌538冊（H23年6月1日） 7 利用実績（H22年4月1日～23年3月31日） （1）入館者数 51,407人（1日当たり174人） （2）貸出者数 30,368人（1日当たり102人） 8 運営体制 日暮里図書館の所管として運営		
	・「これからの図書館調査懇談会報告書」（平成18年4月）において提言を受けた。 ・「荒川区基本計画」（平成19年度～平成28年度）「図書サービスステーションの設置」を掲げる。 ・「あらかわ刷新プラン」（平成17年度～21年度）及び「荒川区実施計画」（平成19年度～平成22年度）において、平成19年度に「図書サービスステーションの設置」を掲げる。 ・平成19年9月8日 汐入図書サービスステーション開設 ・平成21年11月14日 冠新道図書サービスステーション開設 ・平成22年12月18日 汐入図書サービスステーションのフロアの拡張を実施するとともに、蔵書の追加を行った。また、拡張したフロア部分に「柳田邦男さんおすすめ絵本コーナー」を設置した。					
必要性	近くに図書館が無いため、図書館サービスが行き届きにくい地域に図書館サービスを提供するため、必要性が高い事業である。					
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)					

	（単位：千円）						
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移							
予算額	-	-	25,594	22,447	48,879	43,980	23,001
決算額（23年度は見込み）	-	-	20,940	20,956	31,931	38,410	23,001
人件費等			5,001	5,577	13,537	11,860	
減価償却費						4,939	
【事務分担量】（%）			80	70	239	170	
合計（+ +）	0	0	25,941	26,533	45,468	55,209	23,001
国（特定財源）	-	-	0	0	0	0	0
都（特定財源）	-	-	0	0	0	0	0
その他（特定財源）	-	-	0	0	0	3,789	1,349
一般財源	0	0	25,941	26,533	45,468	51,420	21,652
実績の推移							
事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入館者数（人） 汐入	-	-	73,532	147,453	148,438	162,755	170,893
冠新道	-	-	-	-	17,426	51,407	56,548
個人貸出者数（人） 汐入	-	-	23,721	56,758	67,652	70,966	74,514
冠新道	-	-	-	-	8,725	30,368	33,405

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		一般賃金	臨時職員雇い上げ	1,659	臨時職員雇い上げ	2,253	臨時職員雇い上げ
光熱水費	電気料等	389	電気料等	715	電気料等	947	
一般需用費	図書その他消耗品等	9,206	図書その他消耗品等	11,959	図書その他消耗品等	4,861	
役務費	その他の通信運搬費等	1,106	その他の通信運搬費等	2,590	その他の通信運搬費等	2,112	
委託料	図書館システム保守等	3,923	図書館システム保守等	2,693	図書館システム保守等	1,609	
使用料賃借料	建物賃借料	8,753	建物賃借料	10,750	建物賃借料	10,659	
工事請負費			汐入拡張工事	5,192	汐入拡張工事		
備品購入費	システム機器、書架等	4,963	システム機器、書架等	2,258	システム機器、書架等		

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	汐入個人貸出者数（人）	56,758	67,652	70,966	74,514	81,558	
	冠新道個人貸出者数（人）	-	8,725	30,368	33,405	36,746	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設や商店街の中にあるという立地上、買い物の途中に利用される方や、子ども連れの利用者が多いため、このような方のニーズにあったサービスを提供していく必要がある。 ・汐入図書SSについては、平成22年12月にフロアの一部拡張を行ったところであるが、利用者が年々増加していることから、さらに施設の増床等について検討を行う必要がある。 ・汐入地域や西日暮里地域以外の近くに区立図書館がない地域についても、図書SSの設置等図書館サービスの充実について検討を進めていく必要がある。
他区の実施状況	<p style="text-align: center;">（実施 15 区 未実施 7 区）</p> <p>【分室等】 千代田区、港区、新宿区、杉並区、練馬区、豊島区、品川区、文京区、台東区、北区、足立区、江東区、墨田区、江戸川区、葛飾区</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
利用者の図書のニーズの把握・分析	区民に対する図書館サービスの充実
図書館の利用が不便な地域の解消や、利用者の増加等を踏まえて、図書SSの増床、増設等に関する検討を進める。	区民に対する図書館サービスの充実

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民の身近な場所で図書館サービスを提供するため、優先度の高い事業である。

（状況）	
------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	新図書館整備事業費	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	村木 一貴	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	新図書館整備事業費（01-07-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	23 年度	根拠	図書館法、荒川区立図書館条例	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	老朽化の進んだ現荒川図書館に代わる館として、（仮称）荒川二丁目複合施設内に新図書館を設置し、センター機能を持たせることにより、蔵書の充実や図書館サービスの向上を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館の整備に向け、先進図書館の視察や業務計画策定に向けた調査研究等を行う。 ・利用者の利便性向上のため、文庫本等の分類変更作業を行う。 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度 第一回定例会及び第二回定例会にて、図書館のあり方に関する意見要望あり。 ・平成13年度 図書館のあり方に関する庁内検討組織を設置。図書館のあり方、区立図書館の現状と課題等について調査、検討 ・平成14年度 これからの図書館に求められる機能・図書館サービスのありかた等について、引き続き調査、検討 ・平成15年度 第二回定例会にて、図書館の充実についての意見要望を受け、16年度にかけて、中央館の建設等の課題を視野に、「これからの図書館サービスのあり方」について調査、検討 ・平成17年度 先進図書館におけるサービスや機能の調査を行うとともに、区民を中心とした学識経験者を含めた「これからの図書館調査懇談会」を設置し、今後の図書館サービスのあり方に関する報告を受けた。 ・平成21年11月 複合施設の設置及び運営に関する懇談会開催（事務局・総務企画課） ・平成22年 3月24日 複合施設の設置及び運営に関する懇談会報告書受領 ・平成22年11月17日 基本設計業務プロポーザルの実施について、文教・子育て支援委員会報告 ・平成23年 2月23日 （仮称）荒川二丁目複合施設基本計画案の中間報告を、文教・子育て支援委員会報告 <p>23年度予算から項目を独立</p>				
必要性	耐用年数の迫った荒川図書館に代わり、区内の中心部に位置する場所にセンター館機能を有する新図書館を建設するものであり、図書館サービス向上の面から優先度は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	-	-	-	-	-	-	5,148
	決算額（23年度は見込み）	-	-	-	-	-	-	5,148
	人件費等						7,622	
	減価償却費						3,922	
	【事務分担当】（%）						135	
	合計（+ +）	0	0	0	0	0	11,544	5,148
	国（特定財源）							
都（特定財源）							1,344	
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	11,544	3,804	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	関係研修等の受講職員数（人）	-	-	-	-	-	-	4

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	職員手当等					時間外勤務手当	2,157
	賃金					蔵書分類変更臨時職員賃金	1,344
	報償費					図書館業務計画策定支援	624
	旅費					視察旅費等	691
	消耗品費					蔵書分類変更用ラベル等	284
	負担金補助及び交付金					研修会等参加料	48

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後購入する予定の新館配架用の資料の選書～購入～装備～保管～搬入の実施方針の検討 ・ ICタグの購入・貼付に係る契約の実施方針の検討 ・ 新館で新たに実施するサービス（レファレンス専門カウンター、医療・健康情報サービス、絵本館）を担う人材の育成 ・ 図書館システムとの連携を踏まえた新館で実施するITサービス（電子書籍を含む。）の検討
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 2 区 未実施 20 区）</p> <p>新図書館（中央館規模）の整備計画を進めている区 新宿区、墨田区</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	新館で実施する新たなサービスに関する研修等の実施	新館のサービスを担う人材の育成
	新館で実施するITサービスの試行	ITサービスの円滑な導入

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
-	重点的に推進	区民の生涯学習活動の拠点である図書館の環境整備を図るため、きわめて優先度の高い事業である。

（要質問状況）	<p>平成15年二定</p> <p>平成16年三定</p> <p>平成18年一定</p> <p>平成18年二定</p> <p>平成19年二定</p> <p>平成20年一定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能を充実した新しい図書館の建設について ・ 中央図書館の早期設置について ・ 中央図書館構想の策定について ・ 新たな子ども図書館の期待と親子で楽しめる読書環境の整備について ・ 区民施設、教育施設としての中央図書館設置について ・ 荒川図書館の建替えについて
---------	---	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	読書環境の整備	部課名	教育委員会南千住図書館	課長名	東山 忠史
		担当者名	諫山 由紀子	内線	436
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	読書環境の整備（01-08-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	23 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	図書館サービスの充実[04-13]			
目的	図書館利用者に快適な読書環境を提供することにより、利用率の向上及び図書館サービスの充実を図る。				
対象者等	図書館利用者				
内容	限られたスペースの中ではあるが、より使いやすい家具・什器類や新たな備品の導入、壁や床のリニューアルを行うことにより、各図書館での快適性並びに利便性を向上させる。				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度 第一回定例会及び第二回定例会にて、図書館のあり方に関する意見要望あり。 ・平成13年度 図書館のあり方に関する庁内検討組織を設置。図書館のあり方、区立図書館の現状と課題等について調査、検討 ・平成14年度 これからの図書館に求められる機能・図書館サービスのありかた等について引き続き調査、検討 ・平成15年度 第二回定例会にて、図書館の充実についての意見要望を受け、16年度にかけて、中央館の建設等の課題を視野に、「これからの図書館サービスのあり方」について調査検討 ・平成17年度 先進図書館におけるサービスや機能の調査を行うとともに、区民を中心とした学識経験者を含めた「これからの図書館調査懇談会」を設置し、今後の図書館サービスのあり方に関する報告を受けた。 				
必要性	地域館を含めた図書館全体のサービス向上のために必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各館の状況や利用者のニーズを適宜把握しながら、必要な措置を講じる。				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		予算額	-	-	-	-	-	-
	決算額（23年度は見込み）	-	-	-	-	-	-	558
	人件費等	-	-	-	-	-	-	-
	減価償却費	-	-	-	-	-	-	-
	【事務分担量】（%）							
	合計（+ +）	0	0	0	0	0	0	558
	国（特定財源）							0
	都（特定財源）							0
	その他（特定財源）							0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	558
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	閲覧用椅子の購入	-	-	-	-	-	-	51脚
	CD・DVD研磨機の導入	-	-	-	-	-	-	1台

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	消耗品費					尾久・町屋閲覧用椅	170
						町屋・学習室机	94
	備品購入費					荒川・書架	151
						CD・DVD研磨機	295

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	利用者登録率（％）	28.1	28.8	29.4	30.5	35.0	区民の3割以上の図書館利用をめざす。
	個人登録者数（人）	51,768	53,769	55,566	57,568	58,000	区民の3割以上の図書館利用をめざす。
	入館者数（人）	1,211,614	1,256,398	1,341,224	1,391,000	1,400,000	サービスの充実により入館者数増をめざす。

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> より快適な環境づくりに向けて、利用者のニーズを的確に把握する必要がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区政世論調査等において、図書館へのニーズを把握する。	日ごろ図書館を利用しない区民の需要を掘り起こすことができ、より一層のサービス向上につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
-	継続	読書環境の充実はサービス向上に必要な不可欠な要素であるが、費用対効果や社会情勢を踏まえ、必要な範囲で取り組みを進める。

議会議況 （要旨）	
--------------	--